

第 9 回ソーシャルファームジャパン サミット in こくら

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず
〒080-0802 北海道帯広市東 2 条南 4 丁目 10 番地

助成事業の概要

コロナ渦、円安、ウクライナ戦争などの世界的な大きな変化が起こっています。エネルギー、肥料の高騰は私たちの生活と直撃しています。とりわけ社会的に困窮している就労機会に恵まれず、社会参加ができていく人々にとっては一層の厳しさが予想されます。

ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）は社会経済の発展と同時に改善し続ける必要のある課題であり、市民レベルで取り組むことが重要です。

今回は、基調講演に(株)カムラックの賀村社長、ワーカーズコープ連合会の田嶋専務をむかえて、炭谷理事長との対談により現在の労働と福祉の在り方、雇用を生み出すソーシャルビジネスの可能性を考えます。

北九州地域ではかつて四大工業地帯と呼ばれた重厚長大産業が衰退するプロセスにおいて、ソーシャルビジネスの視点が芽生え活発に取り組みれてきました。福祉的目線で捉えられることが多かったソーシャルファームですが、この北九州の特性を踏まえて経済活動への参画を主眼とした事業者のみなさんの発表も企画いたしました。

日 時：令和 5 年 2 月 4 日（土） 13 時～ 17 時

会 場：北九州国際会議場（国際会議室）北九州
市小倉北区浅野 3-9-30（JR 小倉駅徒歩 8 分）

形 式：リアル会場（30 名） + オンライン
形式（106 名）

プログラム

13:00 挨拶 ソーシャルファームジャパン 炭
谷茂理事長（15 分）

13:20 基調講演

「社会との共存共栄から共生へ
～支えられる側からお互いが支え合う関
係へ、カムラックの歩みと実績～」

（株）カムラック（福岡市） 代表取締役
社長 賀村 研 様

「共に働く協同労働と労働者協同組合法
の可能性」

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ
連合会）

専務理事 田嶋康利 様

14:25 鼎談 「これからのソーシャルインク
ルージョン」

炭谷茂、田嶋康利、賀村研（進行
SFJ 事務局 菊池貞雄）

15:10 (休憩・15 分)

15:25 九州北部のソーシャルファーム

(1) (社副) 福岡慈愛会 理事長 池田
浩行 氏

「農福連携のその先へ」

(2) 元祖 京屋 中本 隆 氏

「元暴の社会復帰を願って」

(3) 認定 NPO 法人 抱撲 専務理事
森松 長生 氏

「就労支援 B 型作業所 希望のまち
ソーシャルファーム構想」

(4) (株) 山下工芸 代表取締役 山下
謙一郎 氏

「山下工芸のソーシャルビジネス」

17:05 終了

主 催：ソーシャルファームジャパンサミット
in こくら実行委員会

参加費： 無料

事業の成果

まず、ソーシャルファームジャパン理事長の炭谷氏より、「日本におけるソーシャルファームの発展と課題」についてお話しいただいた。

近年、自分の適性に合う仕事に就くことが困難な人の増加による社会問題と就労先の問題から、ソーシャルファームの必要性が増大し、社会的な認識も高まり、民間企業、国、自治体の取り組みも進んでいる。国連から、障害者について福祉就労から一般就労への早急な移行の勧告もあり、「インクルーシブ社会」実現に向けて、諸外国の状況も参考にしながら、日本のソーシャルファーム発展の課題についてお話しいただき、サミット開催にあたり改めて現在の状況を確認することができた。

基調講演：カムラック 賀村社長より、「社会との共存共栄、そして共生社会へ」と題して、IT× 障害者支援の A 型・B 型作業所の活動を紹介いただいた。支えられる側だった障害を持った方たちが、社会課題を解決する支える側の人になる、誰も飛躍できる社会をめざして日々試行錯誤を重ねながら確実に成長されている印象を受けた。

基調講演：日本労働者協同組合 田嶋専務、より「共に働く協同労働と労働者協同組合法の可能性」と題して、協同労働（市民が協同・連帯して人と地域に必要な仕事を起こし良い仕事をして地

域社会の主体者になる働き方）で、働く人が出資し対等平等の関係で経営に携わり、仕事を立上げて持続可能な地域づくりを目指して共に働くという原則での様々な事業活動を紹介していただいた。

九州北部のソーシャルファームの事例紹介では、福岡慈愛会 池田理事長より「農福連携のその先へ」、元祖 京屋 中本氏「元暴の社会復帰を願って」、認定 NPO 法人 抱撲 専務理事 森松氏「就労支援 B 型作業所 希望のまち ソーシャルファーム構想」、(株)山下工芸 山下社長「山下工芸のソーシャルビジネス」と題して、活動を紹介いただいた。

今までのサミットでは、福祉事業関係の方々からの報告が多かったが、今回は企業や協同組合といった、よりソーシャルファームの考え方に近づいた活動の報告だったと感じた。報告者の粘り強い活動のエネルギーは、インクルージョンの課題に取り組む方々にとって力を与えてくれるものだったと思う。

成果の広報・公表

コロナの影響が続いていたが、今回は参加者数を制限した会場開催と Zoom 開催を行った。講演資料については問い合わせがあった場合方に、都度対応を行っている。

その他、第 1 回の北海道新得町開催から滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島、東京、福島、今回の小倉開催まで、9 回のサミットの内容をまとめた報告集の作成を予定している。

報告集 PDF はホームページやソーシャルファームジャパンの Facebook などで公表予定です。

今後の展開

ソーシャルファームジャパンは 2008 年の設立以来、ニート、引きこもり、障害者、刑務所出所者、難病患者など多様な雇用弱者のソーシャルインクルージョンを目的として活動を始めたが、その後障害者にたいする各制度が制定され就労支援の形態が変化している。

当初はソーシャルファーム概念の普及をめざし、都内で勉強会・総会、北海道や各地で勉強会を行ってきた。

2013 年からは、全国普及活動として「ソーシャルファームジャパンサミット」を開催。北海道、滋賀、栃木、神奈川、大阪、鹿児島、東京、福島と展開し、今回の小倉開催では、ソーシャルファームとして長く活動し実績を残している企業や、刑余者等の社会復帰について紹介することができた。第 3 回つくば大会から、制度への反映の声が高まり、推進議員連盟、自民党 PT、大阪府、東京都の取り組みが鮮明になり、東京都では条例が制定された。来年度以降はソーシャルインクルージョンを定着する取り組みとして、東京都条例での取り組み、また大阪府での条例化など社会制度化をささえるソーシャルファーム活動の社会化をすすめる。また、社会的企業として良質な製品・サービスを提供し、市民が身近に感じられる「ソーシャルファーム」の拡大を目指す。